

平成20年3月22日

関係各位

(財)日本バスケットボール協会

「ショットの動作中のファウル」についての質問事項

平成19年4月1日より施行されているルールに関する質問について、(財)日本バスケットボール協会では平成19年6月13日付で回答しておりますが、そののちあらたに「ショットの動作中のファウル」についての質問が寄せられております。

該当事項について、FIBA(国際バスケットボール連盟)に問い合わせた結果、以下のように回答いたします。関係各位におかれましては、すみやかな伝達および確認と徹底をよろしくお願い申し上げます。

質問:

ショットの動作中のプレイヤーがファウルをされたが、そのプレイヤーがショットをすることをやめてパスをした場合、そのプレイヤーにはフリースローは与えられるのか、それともフリースローは与えられないのか?

回答:

ショットの動作中のプレイヤーがファウルをされても、そのプレイヤーが自らの意思でショットをすることをやめてパスをした場合は、そのファウルはショットの動作中のファウルとはみなされない。
したがって、そのプレイヤーにはフリースローは与えられず、ゲームは、スロー・インで再開されることになる。

ただし、競技規則第15条 15.2の後段にあるように、「プレイヤーがショットをしようとしたときに腕をつかまれたり押さえられたりしたためにショットすることができなくてボールが手から離れなくても」、あるいはボールがバスケットとはまったくちがった方向に向かってしまっても、ファウルをされたプレイヤーが自らの意思でショットをすることをやめていないかぎり、そのファウルがショットの動作中のファウルであることに変わりはない。
このような場合は、ファウルをされたプレイヤーに競技規則第34条 34.2.2のとおりフリースローが与えられる。

以上